



Weekly Market Report

FX, JPY Interest Rate, Topics

Jan 5, 2026

1. 為替相場概況

根強い円安圧力継続も、日銀為替介入、米利下げシナリオには警戒残る

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円相場は年末年始で市場参加者が限定的となる中、156円台を中心としたレンジ相場となった。週初156円台半ばで取引を開始した後、12月日銀会合のタカ派見解を背景に利上げ継続姿勢が意識され、ドル円は156円近辺まで下落。年末にかけてはポジション調整のドル売りが先行し、一時週間安値155.74円まで下落。その後、米新規失業保険申請件数の堅調な結果を受け、米債利回り上昇を背景に156円台後半まで反発。年始は薄商いの中、週間高値156.99を示現するも目先筋の売りにより156円台半ばまで反落。その後、欧州債利回り上昇に連れた米債利回り上昇を背景に156円台後半まで値を戻して越週となった。今週は雇用統計など重要指標が複数公表される。1月は日銀会合とFOMCが予定されており、現状、日銀は利上げスキップ、Fedの利下げは2割程度の予想だが、日銀為替介入や指標の結果次第では米利下げ織込みが進み、円高ドル安が進行するシナリオには警戒したい。（市場商品部/為替CDG）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
1/5(月)	(米国) 12月ISM製造業景気指数	48.4
1/6(火)	(米国) 12月非製造業PMI	52.9
1/7(水)	(米国) 12月ISM非製造業景気指数	52.3
1/8(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	21.1万件
1/9(金)	(米国) 12月雇用統計	-

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

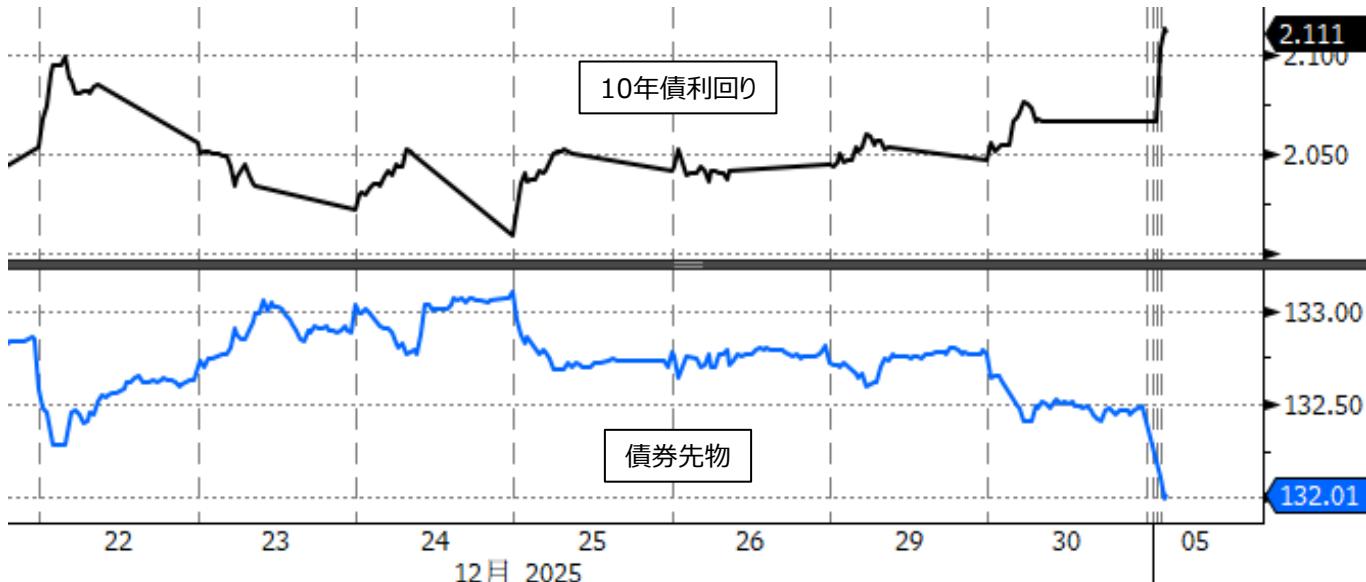
(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
松榮俊樹	155.00 – 158.50	今週は雇用統計が発表予定であり、市場予想を上回れば円安に拍車がかかるか。米国とベネズエラの動きにも警戒したい。
堀広太	155.50 – 158.50	今週はISM製造業、非製造業景況指数、雇用統計など重要指標が目白押し。結果によって上下する展開を予想。

2. 円金利相場概況

日銀利上げ後も、利上げ継続観測が根強く、10年債金利は一時2.10%へ

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



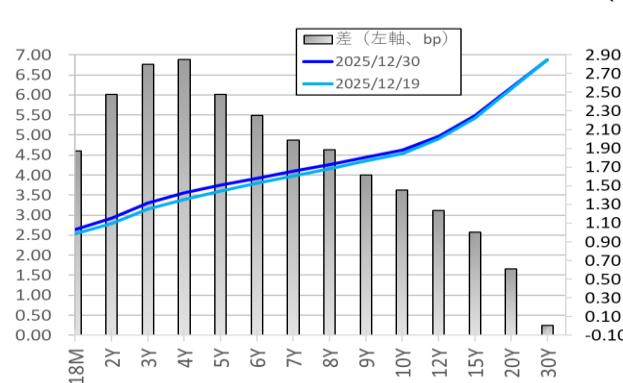
GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 30 日 30 分 Copyright © 2026 Bloomberg Finance L.P. 05-Jan-2026 09:56:40 (出所) Bloomberg

コメント

昨年12月22日から30日にかけての10年国債金利は、日銀明けの序盤に大幅金利上昇も、その後は狭いレンジで推移。22日は、前週末の日銀利上げ決定後にも円安進行が根強く、今後も利上げ路線が継続されるとの見方から、10年債利回りは一時1999年2月以来の高水準である2.10%を付けた。しかし高市首相が『責任ある積極財政』について「無責任な国債発行や減税を行うということではない」と述べたことで財政拡張への過度な警戒感が和らぎ、10年債利回りは2.02%台まで低下。その後、25日の植田日銀総裁が講演で、今後も利上げを継続する方針を示したことや、26日には12月の東京都区部CPIが市場予想を下回ったことなどの材料をこなしながら、年末の薄商いのなか10年債利回りは2.05%程の狭いレンジで推移し、2.070%程で越年した。

年明けした足元は、日本市場が休場中の米金利上昇の流れを受けて2.10%超まで再上昇している。今週は火曜日の10年・木曜日の30年国債入札に加えて、4カ月ぶりに正常なスケジュールで発表となる金曜日発表の米雇用統計にも注目したい。（市場営業部/黒川）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
森本泉貴	2.00% – 2.15%	今週は複数の米国重要経済指標が発表予定。年始は流動性が低いため、米国金利動向に連動すると予想。
伊豆浦有里恵	2.06% – 2.20%	次期利上げへの警戒感から金利上昇地合は継続。年始で流動性が低い中、6日の10年債入札が需給の試金石となるが注目。

3. 今週のトピックス

2026年のドル円相場見通し

構造的な円安材料はあるものの、日米政策金利差の縮小でドル円相場の上値は徐々に重くなる展開

<2026年のドル円相場見通し>

2026年のドル円相場レンジは140.00-165.00円を想定。FRBの利下げと日銀の利上げが実施されていくことでドル円相場の上値は徐々に重くなり、年末水準は148円程度とみている。

2025年の主要通貨年初来対ドルパフォーマンス【図表1】をみると、トランプ大統領の関税政策によるドル離れの動きからユーロへの資金シフトが進む一方、円についてはマイナスの実質政策金利を背景に主要通貨をアンダーパフォームする展開となっており、2026年も同様の理由から大幅な円高進行は見込みづらそうだ。また、米国との短期金利差を受けた円キャリー取引の継続や、日本の貿易赤字・デジタル赤字の拡大、新NISAに伴う個人の海外投資の増加なども構造的な円安材料となってくる。

ただし、米国から円安是正の姿勢が度々示されていることもあり、為替介入への警戒感がドル円相場の上値を抑制するほか、日米政策金利差の縮小が円キャリー取引の巻き戻しにつながることで、ドル円相場は徐々に下落に向かうとみている。シカゴIMM投機筋ポジションでは、円のネットロングが緩やかに縮小し、現在はほぼニュートラルとなっているが【図表2】、投資主体別ではレバレッジドファンドによる円売りが約1年ぶりの水準まで積み上がっており、ポジションの巻き戻しによる円高進行は十分考えられる状況だ。

<米国FRBの動向>

FRBは、雇用市場における下振れリスクの拡大を受けて、2025年9月から3会合連続での利下げを実施し、2025年末の政策金利は3.50-3.75%となっている【図表3】。FOMCにおけるドットチャートの政策金利見通しでは2026年の利下げが1回にとどまっているが、市場では2回程度の利下げが織り込まれており、2026年5月に任期が満了するパウエル議長の後任議長が利下げを加速させるといった思惑も背景にあるとみられる。

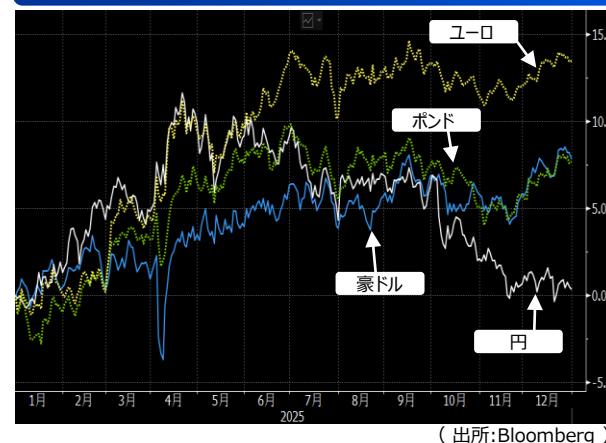
米国景気についてはソフトランディングが見込まれるもの、関税によるインフレ圧力が限定的な中、雇用市場の悪化リスクには注意が必要であり、状況次第ではFRBの利下げが加速する可能性もみておいた方がよさそうだ。

<日銀の動向>

日銀については、2025年12月の金融政策決定会合で25bpの利上げを実施し、政策金利を0.75%としている。植田総裁の会見では、「積極的な貸上げが途切れるリスクは低い」、「実質金利はきわめて低く、引き続き金融緩和の度合を調整していく」など、利上げに前向きな姿勢が示されたものの、中立金利や利上げペースについてのコメントがなかったことから、投機筋主導で円安と金利上昇が進行する展開となった。市場では次の利上げは7月ごろが見込まれているが、円安が加速した場合には利上げ時期が前倒しどとなる可能性もありそうだ。高市政権は金融緩和を維持する姿勢を示しているものの、物価高の大きな要因となっている円安への対応として日銀の利上げは容認するとみられる。

(チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃)

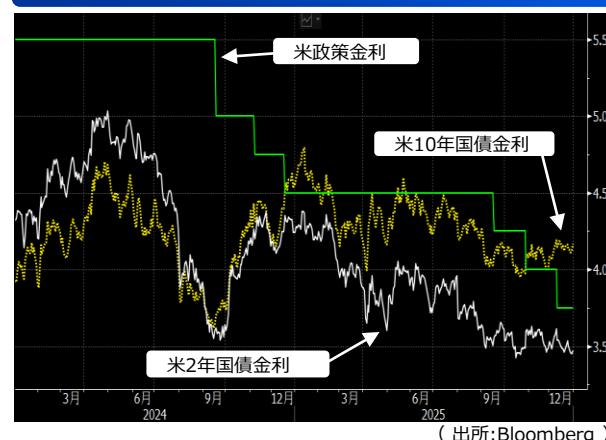
【図表1】主要通貨対ドルパフォーマンス (%)



【図表2】ドル円相場とシカゴIMM投機筋ポジション



【図表3】米国政策金利と2・10年国債金利 (%)



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨ではなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会